科目ナンバリング	U-LAS04 20026 SJ46				
授業科目名<英訳>	神経心理学基礎ゼミナール Introductory Seminar on Basic Neuropsychology		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	月浦　崇
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると，様々なタイプの高次脳機能障害が起こる．高次脳機能障害を通した脳のメカニズムの研究に関しては，長い間積み重ねられてきた数々の症例報告の歴史があるが，現在でも未だに多くの謎が残り，最新の知見も日々報告されている．本ゼミナールでは，日本の神経心理学の最新の研究論文を通して高次脳機能障害からみた脳のメカニズム研究を理解することをめざす．

[到達目標]

・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて，基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める．
・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する．
・研究論文を読んでその内容をプレゼンすることで，プレゼンテーションの基本的素養を習得する．

・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて，自らを客観的にみつめる力を体得する．

[授業計画と内容]

脳の様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患）によってヒトの脳が損傷されると，様々なタイプの高次脳機能障害が起こり，その損傷部位と症状との対応関係を通して，ヒトの高次脳機能を担う脳のメカニズムの研究が国内外問わず進められている．本ゼミナールでは，日本の神経心理学の２大雑誌である「神経心理学」と「高次脳機能研究」から最新の総説論文を取り上げ，脳と心の関係性を理解し，考えることをめざす．

本基礎ゼミナールでは，教員が予め指定した論文を各受講者が一人ずつ担当し，その論文の内容をプレゼン資料を作成して皆に紹介する．発表担当者以外の受講生は，その内容について積極的に質問し，議論をする．

授業の内容は概ね以下の通り．なお，授業内容や順番は目安であり，多少変更する可能性がある．

詳細な論文の内容については事前にKULASISに発表，第１回の授業日に指示する．
第１回　ガイダンスと発表順の決定．プレゼンの見本の提示．
第２回　神経心理学とは？
第３回　視覚認知の障害①
第４回　視覚認知の障害②
第５回　視覚認知の障害③
第６回　行為の障害
第７回　言語の障害①
第８回　言語の障害②
第９回　記憶の障害①
第10回　記憶の障害②
第11回　記憶の障害③

神経心理学基礎ゼミナール(2)へ続く↓↓↓

神経心理学基礎ゼミナール(2)

第12回　感情と情動の障害
第13回　前頭葉機能の障害
第14回　社会的行動の障害
第15回　まとめ・フィードバック

[履修要件]

『神経心理学ⅠまたはⅡ』を受講済，もしくは受講中であることが望ましい．なお，本授業では履修人数の制限を行う予定であり，履修制限の際には本要件を考慮する．

[成績評価の方法・観点]

出席とディスカッションへの参加の状況（約60%）および発表内容（約40%）で評価する．

[教科書]

使用しない
論文については事前にKULASISにアップするので，各自予習・復習に利用してください．また，授業の際には各自で持参してください．

[参考書等]

（参考書）
『神経心理学』（日本神経心理学会発行）
『高次脳機能障害研究』（日本高次脳機能障害学会発行）

[授業外学修（予習・復習）等]

初回の授業後に，授業で扱う論文をKULASIS上にアップロードするので，各授業の前までに事前にダウンロードした上で抄録や内容を読んだうえ授業に参加すること．また，授業後には授業内容と論文を照らし合わせた上で，必要に応じて復習をしておくこと．

[その他（オフィスアワー等）]

ゼミ形式の授業のため，履修制限を行う．履修制限の方法は別途指示する．
オフィスアワーについては，KULASISを参照のこと．

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部